

# 栃木県生協連・2011年度9月定例報告

2011年9月8日  
栃木県連 専務 鎌柄

## (1) 8月活動日誌

日付	曜日	日誌
8月1日	月	宇都宮市消費生活展実行委員会
8月2日	火	県連くらし部会
8月3日	水	労福協幹事会
8月4日	木	県連理事会
8月8日	月	うつのみや食育フェア実行委員会
8月13日	土	足尾銅山生協三養会訪問
8月18日	木	福祉ネットワーク世話人会
8月22日	金	足尾銅山生協三養会訪問
8月23日	火	福祉センター理事会、県食品表示セミナー、県原子力損害賠償説明会
8月24日	水	地連伊野瀬議長・事務局長来訪、県連ボランティア打合せ
8月25日	木	うつのみや食育フェア説明会
8月26日	金	とちぎ食の安全ネットワーク世話人会、ぽ・ぽ・らとちぎ暮らし応援会
8月29日	月	宇都宮市消費者展実行委員会

※東日本大震災を受けて、まとめは概況とします。

## (2) 8月活動の概況

### (東日本大震災への対応)

#### 1. 栃木県連としての対応

7月は4回栃木県連独自企画でのボランティア派遣を行ったが、小名浜と平のボランティアセンターとも、名称が復興支援センターに変わり、災害復旧から被災者の方の復興支援に重点を移している。小名浜は7月18日で移転の為一端閉鎖となり、ボランティア派遣も平地区のボランティアセンターに7月23日から移行した。同ボラセンも8月下旬は一端休止となり、9月から被災者へのボランティアは木、金、土で行われる予定。8月県連の派遣は休止し、今後の取り組み方を検討する期間とした。

#### 2. 日本生協連としての対応

大槌町とその周辺の避難所への引っ越し派遣、ボランティアセンターでのスタッフとしての長期支援、併せて3県の被災6生協へのおさそい支援への派遣は、8月で収束の予定。

全国の生協からの募金として、栃木県の「とちまる募金」に対して5月10日334万円、7月5日610万円、8月10日510万円、計1,454万円が日生協から送金をいただいた。(現在、県のHP上は944万円) 学校生協約4万円、全労済からの1千万円、パルシステム連合会から約287万円(県のHP上)、合計約2,745万円が「とちまる募金」に贈呈された。

県内生協から日生協へ送金されたのは、県職員生協約17万円、学校生協約10.7万円、ふれあいコープ約26.9万円、とちぎコープ約3,745万円、計約3,800万円になった。

全国の生協グループの募金総額は、8月1日現在約32億7千万円、現在まで日本生協連から各被災県への送金額は、21億7千万円になっている。

6月17日の日本生協連総会の確認を経て、被災生協へのお見舞金として6億円を目標に会員に協力の呼びかけがあり、県連として10万円を寄付した。

#### (会員の特徵)

8月12日に足尾銅山生協三養会の深沢売店が、漏電で全焼した。幸い従業員の方は軽症で済んだが、隣接の家屋が類焼し住民のご家族が避難生活をされている。店舗・隣家とも母体会社の施設であり、今後の方向性が検討されている。

#### (食の安全課題の関連)

26日のとちぎ食の安全ネットワーク世話人会では、9月13日13時半～「とちぎ食品安全フォーラム」の当日運営と準備内容について、最終の検討を行った。食品安全委員会での「放射性物質の食品健康影響評価」報告に加えて、専門家と行政からの講演を加えることと、パネルディスカッションではなく、講演者との質疑・意見交換を行うことが確認された。関心の高いテーマで、300名規模の予定を大きく上回り、会場の限界の500名を上回り、締め切り後の申し込みもあり、お断りをしている方々も出ている。各団体でお声掛けをいただいた方々もあった。

今後、10～11月に県内（高根沢、宇都宮、栃木）3会場で子育て層の方向けに、ネットワークとして学習会開催の検討を進めている。

#### (消費者課題の関連)

7月28日の幹事会を受け今年度計画の具体化として、11町長への訪問の要請書を月末に発信している。14市へのアンケート案を作成した。15日の全体会では、自治基本条例と町長訪問に向けた学習会を含めて開催することが確認された。

11月26日の宇都宮市消費生活展への出展に向け、実行委員会が2回開催され、各団体で消費者被害のアンケートを作成し、9月中旬に基本集約、10月にまとめを行うこととしている。

#### (県及び他団体との協働)

##### 1. とちぎ暮らし応援会

- ・8月26日ぽ・ぽ・ら主催で、とちぎ暮らし応援会の説明会が開催された。
- ・参加者は、県内のNPOや企業、行政関係者など。
- ・県内に避難されている2,627人の方々への支援として、何ができるのか被災者の方などの報告を受け、意見交換がされた。
- ・県連の関係では、とちぎコープ、ふれあいコープ、NPOウィズからも参加があり、今後のどのような支援が求められているか検討が始まった。

##### 2. 国際協同組合同年（仮）栃木県実行委員会

7月の打ち合わせに続いて、8月11日にJA栃木中央会小島副会長、高橋専務、小瀬参事、石村部長、鈴木次長と竹内会長、鎌柄で2回目の協議を行った。仮称・栃木県実行委員会発足を9月22日として、県内の連合会等県域の各団体に働きかけていく事とした。

(3) 9～11月の課題

1. 9～11月部会・委員会活動の推進
2. 9～11月ネットワーク活動（食の安全ネット全体会、消費者ネット全体会）推進
4. 9月13日「第8回とちぎ食品安全フォーラム」の準備と成功
5. 協同組合間連携による国際協同組合年に向けた推進
6. 栃木県生協内の国際協同組合年ワーキングチームの活動推進
7. 震災被災地への支援・ボランティア派遣